

研究調査資料の紹介

ヨーロッパ諸国のトン数測度に関する電算化状況の実態調査

伊藤 泰義、山澤 時廣

本報告は、船舶の安全、環境の保護等に関する諸規則の適用区分等に用いられている重要な指標である船舶のトン数測度について、国・造船所とも現在、手作業による多くの時間を費やしているため、効率化を図るため電算化された設計データをトン数測度へ利用する方策が必要である。その検討資料とするため、ヨーロッパ諸国におけるトン数測度の実態を調査して、調査結果を纏めたものである。

調査した国毎に船舶行政を取り巻く状況、制度が異なり、一律での比較検討は困難であるが、日本の造船所の電算化の進捗状況をふまえて、政府および造船所双方のトン数測度業務の合理化、効率化を目指す必要があることを示している。